

1. 学生実行委員会によるイントロダクション

(1) 概要

日時・場所：2008年7月19日（土）、静岡文化芸術大学（静岡県浜松市）

趣旨：

2008年10月3日（金）から10月13日（月）にかけて静岡文化芸術大学西ギャラリーで開催された移民パネル写真展「ブラジルの中の日本、日本の中のブラジルー写真で見る100年、過去から未来へ」の関連イベントとして開催。ブラジル人大学生が自ら企画し、ブラジル人高校生たちと共に、この国での生活や将来について語り合った点がこの座談会の一番の特色である。

企画・運営：

写真展を実施する学生実行委員会のコラボ部門メンバーのうち、以下の3名が主体となった。

林ケンジ・クラウジオ （文化政策学部 国際文化学科3年）

金城 ジゼレ （デザイン学部 生産造形学科1年）

タテベ サユリ （デザイン学部 メディア造形学科1年）

上記3名は、浜松で育ち静岡文化芸術大学で学ぶブラジル人学生である。

(2) 目的

日本で育ってはいるものの、今後の進路に悩むブラジル人学生を対象に、将来の夢や進路について考えるきっかけとなる場を設ける。同時に、自分と似たような境遇に立つ、近い年齢のブラジル人学生らと積極的に意見を交わす。また、複数のブラジル人の現役大学生と直接話をするにより、より現実的・多面的に自らの将来を考えていく場とする。進路の話だけでなく、日本社会に求めることや家庭での問題、親との意見の相違点など、彼ら独自の意見や悩みを共有しあい、より良い未来を考えるための飛躍の場とする。

この企画は、ブラジル人学生が枠にとらわれない独自の未来を、自らの手で切り開いていくことを最大の目標としている。話し合いでは一人一人の意見や境遇を尊重し、想像力をもって挑むことをブラジル人学生には事前に通達する。

インスタントカメラを使用して2～3週間、ブラジル人学生の日常生活を写真におさめてもらう企画では、彼らが普段どのような生活を送っているかを視覚的に知ることができる。なお、アンケートに協力してもらい、話し合いの場では言い切れなかったことや、話し合いの感想、その後考えが変わったことなどを自由に記入してもらう。カメラで撮った写真とアンケートの結果は、パネル展での「3. 現在の日本で暮らすブラジル人の様子」の展示に使用する。

この企画は、現在日本に住むブラジル人学生という若い人材に着目し、これからより一層ブラジル人と日本人との共生を考えていく上で意義深いことである。彼らはブラジル人としての立場と、日本で育ってきたという立場の双方からものごとを考えていくことのできる人材であり、より柔軟な見方をもつことができると考えられる。私たちは、彼らブラジル人学生の未来を明るく照らす案内役として機能できることを目的とし、この企画にいたった。

(3) 座談会参加者 (★印の3名はインスタントカメラ・アンケート提出)

内田ルカス・ケンシロ	(江之島2年) ★
金川 ナヤラ	(市立2年)
米須 清治	(市立1年)
権藤 香	(湖東2年)
田中 美登里	(湖南1年)
中道 マリアナ	(市立2年)
広瀬 サユリ	(市立2年) ★
吉田 サユリ	(湖南2年) ★

上記8名はいずれも、浜松市内の公立高校に在籍するブラジル人高校生。

林ケンジ・クラウジオ	(文化政策学部 国際文化学科3年)
金城 ジゼレ	(デザイン学部 生産造形学科1年)
タテベ サユリ	(デザイン学部 メディア造形学科1年)

(なお、上記11名はすべて、この報告書において所属と実名を公表することに同意している)

(4) 話しあったテーマ

- ・『自分は何人ですか?』
ブラジル国籍を持ちながら、日本在住期間が長い私たち。何人かと問われたとき、あなたはどのように答えますか?
- ・『帰国したいと思いますか? 帰化は考えていますか?』
日本で暮らしていると、ブラジルへ帰りたい、又は旅行で行ってみたいと思いますか? 20歳になると、私たちは日本帰化ができますが、あなたは今、どう思いますか?
- ・『ブラジル人で良かった事・困ったことは何ですか?』
「ブラジル人だから…」ということを理由に、あなたが良かったと思ったこと、あるいは困ってしまったことはありますか?
- ・『両親との考え方の違いはありますか?』
日本の教育を受けている私たちは、ブラジルの教育を受けた両親とは違った考えを持つことがあります。あなたはそのようなことがありますか?
- ・『進路や夢を教えてください』
あなたの夢、そしてそのための進路は、現時点でどのように考えていますか?
- ・『最後に、日本、またはブラジルに望むものはありますか?』
日本やブラジルの制度で「こうなったらいいのに」というように思ったりすることはありますか? それはどのようなことですか?

(5) 座談会の発案から発表までのプロセス

07年12月

- ・座談会イベント発案

08年1月

- ・静岡文化芸術大学の池上重弘教授、イシカワ エウニセ アケミ准教授に相談

2月、3月

- ・企画書作成
- ・各部門に正式に発表
- ・巨大絵との連携を発案

4月

- ・金城 ジゼレ、タテベ サユリ合流
- ・内容固め
- ・予算案作成
- ・スケジュール調整

5月

- ・開催日決定
- ・参加者募集資料作成
- ・本番で話すテーマについての勉強

6月

- ・浜松市教育委員会訪問
- ・静岡県教育委員会への連絡
- ・8つの高校にアポ取りの電話
- ・6つの高校を訪問
- ・開催場所打ち合わせ、決定

7月

- ・参加者8名決定
- ・ボード等の作成
- ・動画班とのリハーサル
- ・内容最終確認、開催場所変更
- ・座談会本番(19日)

8月

- ・インスタントカメラ、アンケート回収
- ・報告書作成
- ・NHK取材

10月

- ・移民パネル写真展の会場にて座談会をまとめたDVDを上映

(6) 外部向け活動内容

月	日	誰が	相手先等	内容
6	4	林	浜松市教育委員会	参加者募集の挨拶
	13	林・金城・タテベ	市立・湖南	資料送付
	16	林・金城・タテベ	湖東・江之島・湖西・新居・西・東	資料送付
	17	林	湖南	電話でアポ取り
	19	林	市立・湖南	高校訪問
	19	林・金城・タテベ	湖東・江之島・湖西・新居・西・東	電話でアポ取り
	23	林・金城・タテベ	新居	高校訪問
	24	林・金城・タテベ	江之島・湖東	高校訪問
	27	林	湖西	高校訪問
	30	金城・タテベ	江之島	高校訪問(再度)
7	4	林・金城・タテベ	市立・湖南・湖東・江之島・湖西・新居・西・東	電話で再確認
	17	林	サーラ保険	行事保険の契約
	19	林・金城・タテベ	本学 12 階交流ラウンジ	座談会本番

教育委員会からの紹介校は全部で 8 校

浜松市立高等学校

静岡県立浜松湖南高等学校

静岡県立浜松湖東高等学校

静岡県立浜松江之島高等学校

静岡県立湖西高等学校

静岡県立新居高等学校

静岡県立浜松西高等学校

静岡県立浜松東高等学校

そのうち参加したのは市立・湖南・湖東・江之島の 4 校から 8 名

(7) 参加者募集時のチラシ

ブラジル人 大学生と 高校生との 座談会に参加 しませんか？



今年はブラジル移民100周年という節目の年です。

これを機に、今後の進路に悩むブラジル人学生を対象に、将来の夢や進路について考えるきっかけになればと座談会を開くことになりました。

自分と似たような境遇に立つ近い年齢のブラジル人学生と意見を交わす絶好のチャンス。ぜひ、参加してみませんか？

日時：7月19日（土）
10:30～16:45

予備日：7月26日（土）

会場：静岡文化芸術大学

集合：浜松駅前に10時
駅からは徒歩で学校へ
向かいます。
服装は自由です。

当日のスケジュール

午前

NポケットのDVDを鑑賞
自己紹介

昼食

昼食・飲み物はこちらで用意します。

午後

座談会

- ・自分は何人だと思えますか？
- ・帰国したいと思えますか？帰化は考えていますか？
- ・ブラジル人でよかったこと、困った事はなんですか？
- ・両親との考え方の違いはありますか？
- ・進路や夢について教えて下さい。
- ・最後に、日本またはブラジルに望むものはありますか？

集合写真撮影

(8) 新聞報道記事

① 静岡新聞 2008年7月16日(水) p.2

080716(水) p.2 静岡新聞 静岡 飛天 屋敷 (夕刊)

日系ブラジル人の進路や夢...

悩み分かち合いたい



日本とブラジルをつなぐのは大学生。静岡文化芸術大が十月に開催する日伯移民百周年「移民パネル写真展」の実行委員会、同大に通う三人の日系ブラジル人大学生が活躍中だ。十九日にはブラジル人高校生との座談会を企画。言葉の壁、国籍の違いに悩みながらも大学進学を果たした「先輩」として「同世代のブラジル人が進路や夢について考えを分かち合いたい」と話している。

先輩が座談会

座談会について話し合う(右から)建部さん、林さん、金城さん。討論は夜まで続く。浜松市中区の静岡文化芸術大

三人は、文化政策学部国際文化学科三年の林ケンジ・クラウジオさん(二)、ことしデザイン学部に入學したばかりの建部サユリさん(一)、金城ジゼレさん(三)。林さんは同展でブラジル人との交流をはかる部門のリーダーを任せられ「自分と同じ境遇の子と話してみた



い」座談会を企画した。日系三世の林さんは小学校三年で来日し、日本の小学校に編入。徐々にポルトガル語も話さなくなり「自分は何人？」と複雑な気持ちを抱いていた。「自分は日本人」とかたくなに決めていた時期もあったが「大学に入って移民やナショナルリズムについて学び、一気に視野が広がった。今で

は母国ブラジルへ、そして世界の国々へと興味の幅を広げている。「ブラ

ジル文化を今まで避けていたという建部さんも、企画へ参加する中で「日系人の歴史を伝えたい」と考えるようになった。座談会は本音で語り合うことを目的に原則非公開とし、自分は何人か帰国したいか親との関係などのテーマについて話す。若し世代のブラジル人の中には、来日や帰国を繰り返したり、働き始めて進学を断念する子どもたちも多いためから「大学を将来の選択肢に入れてもらいたい」(林さん)。金城さんは「ブラジル人だからだめだと思わず、自分の夢に向かってほしい。その通る道に大学があるなら、ぜひチャレンジして」と付け加えた。

松山市北区小松347
☎(053)584-0108
FAX(053)586-0815

松市天竜区二保町二保1957
☎(053)922-0069
FAX(053)925-4265

浜松圏

静 080920(日) p.19

ブラジル人高校生と語り合う大学生ら

浜松市中区の静岡文化芸術大



“日本育ち”活発議論

日系大学生と
ブラジル人高校生と
国籍などテーマ

静岡文芸大

静岡文化芸術大(浜松市中区)で十九日、同大に通う日系ブラジル人大学生と市内外のブラジル国籍の高校生八人による座談会が開かれた。『日本育ちの外国人』として同じ境遇にある若者同士が語り合い、自分たちのルーツや将来について考えようと企画された。

文化政策学部国際文化という声とともに「私た
学科三年で日系三世の林
ちが第一歩を踏み出し、
ケンシ・クラウジオさん
変えていこう」という意

「二、三人の学生が中心
となり、「自分は何人だ
と思うか」「帰国・帰化
について」などをテーマ
に、国籍に関する悩みな
どについても率直な意見
を交わした。

「ブラジルや日本に望
むこと」という問い掛け
には、「差別のない町」

見も出た。

座談会の様子は、十月の日本ブラジル移民百年を記念した「移民パネ
ル写真展」で展示する。
参加した浜松市立高二年
の中道マリアナさん(セ
は「それぞれが違う意見
を持っていて刺激を受け
ました」と笑顔を見せた。
林さんは「活発に意見交
換できた。日本とブラジ
ルの両方が良くなってほ
しい、という気持ちには皆
同じです」と振り返った。